

## 低線量被曝でも 確実にがん死がある

賛助会員 小川 矩弘

福島第一原発以後、多くの原発推進学者から「低線量被曝は怖くない」とか「100 ミリシーベルト以下の被曝が健康に与える影響はさだかでない」などの発言が多数ありました。アメリカの放射線学者ゴフマン等は、広島・長崎の原爆を含む、膨大な放射線と健康をめぐる問題を分析して「ガン線量」という概念を導き出しました。「ガン線量」とは、ガン死が一件増えるのに必要な被曝量と定義されます。

ちなみに、0、10、20 歳各々のガン線量は、640、880、1970 ミリシーベルトです。

即ち0歳児が640 ミリシーベルトを被曝すれば、この子は必ずガン死で一生を終わる。もし、0歳児10人が一人64 ミリシーベルト被曝すれば、10人合計の被曝線量は、640 ミリシーベルトになり、10人中一人がガン死することになります。「ガン線量」の定義に従えば、1 ミリシーベルトという超低線量被曝でも、一万人の0歳児の場合は、 $(10000 \div 640) = 16$ 人の子が統計的にガン死することになるのです。

これが低線量被曝の真の姿だと思います。

ある線量を被曝した時、その線量が個人個人に与える被害を考えるのではなく、被曝の影響を統計的に把握して、健康被害を被曝人口総体として考えることが大切だと思います。

### 角膜移植手術を受けて

安藤 たみ子

9月に両目合わせて12回目となる手術を受けました。皆さんがびっくりするほどの回数となりました。

一人で歩けるようになりました。

でも、手術直前は一人では歩けず、手探り状態で家事をしてましたから本当に嬉しかったです。高齢になっての視力低下は困りますね。見えないのですべての物・すべての事を記憶する必要があるので、それが出来ない。不注意な性格の私にはありとあらゆる失敗をしました。水道の閉め忘れ、電気・換気扇の消し忘れ、水・汁物はひっくり返す・床に落ちた野菜くずを踏みつぶして歩く。

その度夫は大騒ぎです。今は慣れて少しは減りましたけど。

私には小3と4才の孫が牛久におります。一緒に過ごすことで生きる力をもらってました。やはりいろんな人との交流がないと寂しいです。

何か所かの障害者の会に参加しますが、同じ地域の方々との交流が一番いいですね。

つく身協の皆さんとは数回しかお会いしてませんが、よく懐かしく思い出しております。

「頑張っておられるのだからなあ」と思うと不思議と私も元気がわいて来たものです。

今度からは夫と同伴で参加させて頂きたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

### 会員の活躍 葛屋傑さん

ある日、葛屋傑さんの指導している民謡教室にお邪魔することになりました。

ケースの中にはたくさんさんの尺八が入っています。曲調によつて尺八を変えるのだそうです。ラジカセも持ち込みます。

葛屋さんの出番はたくさんあります。福祉センターの活動もそうですが、ふれあいプラザにも出かけます。また、森の里や高見原など、頼まれればどこにでも出かけます。これだけは誰かが代わりにできるというものではありません。携帯電話の読み上げ音声を聞きながら、多くのスケジュールを管理しています。

葛屋さんはウクレレクラブ「ら・そよかせ」のメンバーでもあります。とても力強い声量の持ち主であり、本格的に学んだ発声と表現力でボーカルを担当しています。スチールギターの方が欠席の時は、ハーモニカで伴奏。八面六臂の大活躍です。

